

表紙, 目次, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38346

明治四十五年三月二十五日發行

十全會雜誌

卷七十第
號三第
(號四十七第)

全澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌 第十七卷第三號 目次

○原著及實驗

●スパンケレル氏「コホ」ノ結核病ニ對スル
解熱作用。

ドクトル 竹中繁次郎 一

●肺百斯篤患者ニ對スル綿紗覆口試驗。

清國奉天防疫官 松王敷 男 二

●男性「ヒステリー」患者供覽。

若杉病院 寺尾秀三 一四

○通信

- 久保武氏通信。
- 清水秀夫氏通信。
- 福田美明氏通信。
- 矢吹清氏通信。
- 相馬甲五郎氏通信。
- 和田政範氏通信。
- 植西武彦氏通信。
- 延川靖氏通信。
- 森田齋次氏通信。
- 岩崎勝治氏通信。

○校內雜報

●香林會例會の記。

○叙任及辭令

●海軍省。●金澤醫學專門學校。●石川縣。

○人事

●伊藤喬氏。●吉尾開道氏。●福田美明氏。●上野善造氏。●吉田圓磨氏。●高田信弘氏。●細川義溫氏。

○會告

●校外特別會員會費領收調書。



通信

一月十五日

南滿奉天鐵路西一、第四十八號ノ一

久保武

●久保武氏通信 (高安。金子。松原教授宛)

全氏は三十一年本校を卒業して目下滿洲醫學堂の解剖學教授として活動中なること能く人の知る所なり

謹啓其後皆々様御變りも無之候哉御申上候平素は思ひながら御無音に打過ぎ平に御覽被下度候迂生儀無事勤務罷り在り候間乍憚御休神被下度候當地季候の寒さ厳しき事は逆も朝鮮(京城)などの比にあらず戸外は寒風強烈目も口も開き得ざる位にて併し宿舎内には「ベチカ」と稱する者有之壁を利用せる大「ストーブ」にて朝夕二回石炭を入れれば終日暖かく「コダツ」の必要も無之候

風土氣候の異なる丈けそれ丈小生の立脚地として學問上多少趣味の存する所思へば反つて愉快を感ずべき次第と存候學校は愈々本年中に全部新築の筈にて既に「プラーン」も出來居り候目下解剖學教室のみは獨立せる一家屋(隔離病舎を改築して)にあり日本人の助手二名使ひ居り候本科生は本年度は日本人二十名のみ故朝鮮人や支那人に向つての教授と異り全く日本の専門學校同様に感じ申候凡て原名を用う十二月二十八日より二月十日迄休暇に候目下例の朝鮮人に關する論文殘稿に付き着手致候昨年東京にて完成せる分は愈々大學紀要にて出版の事小金井先生よりも通知有之候微力ながら乗り掛けたる舟故彼岸に達せずんば己さざる覺悟に御座候將來は倍舊の御愛顧御指導祈り上げ奉り候先は右時候御見舞舞如斯に御座候早々

●清水秀夫氏通信 (二月十八日發八田智証氏宛)

(三十五年卒業。陸軍一等軍醫)

拜復、久し振りにて家郷の狀況殊に母校の近況委細御通知被下難有拜讀近來の快事にて有之候、大兄益々御清健御健康も今や舊に倍し金城之地に依然御攻學結構の事に御座候、小生は去る四十三年の三月に臺地を後めに東京方面に復歸致度考の處、當時欠員もなく先づ假りに千葉の鐵道聯隊附に補せられ候處、千葉町と思ひきや千葉町には聯隊あるも小生の任地は此より三里斗り江戶に近い方の習志野ヶ原の南端津田沼と申す寒村なる第三大隊附ならんとは、一寸驚きもせしも永くも置くまじと我慢して當時は隊より一里斗りある船橋と云ふ千葉街道上の本宿に一寸れ輿を据はしは同じ年の同じ月なりき、斷つて置くが鐵道隊は工兵で其の任務は鐵道の布設破壊運轉等特種の隊なる事は既に御存じの如く、夫れ故東京は兩國橋驛より銚子方面、房總線では大原一ノ宮方面、さては成田鐵道等何れも官私設とも乗務員と云ふもの乗り込みて鐵道院と連絡を保ち實習は是等の鐵道に乗り組みて勤務するに云ふ譯で其の影で「コツトラ」迄も「フリーパス」と云ふものを總裁より呉れてある、ツマリ大臣や議員様と同資格で此の沿線の鐵道はドコテモ一等客で大意張りロハで乗りロハで降りるツウ、しきはそれが一寸鐵道隊と云ふもの、役徳なり、御承知ならんも習志野は廣潤なる平原兵隊さんの訓練には持つて來いの地大筒掛でも馬乗りの隊でも自由自在に飛び廻り駆け廻り戦さの稽古が出来る頗る調法な土地なれば茲に騎兵第十三、十四、十五、十六聯隊と云ふ四ツの隊と鐵道隊の三大隊と云ふ兵第三、尤も騎兵隊は津田沼驛より一里もあり此處には習志野衛戍

病院と云ふ金澤のものより稍小規模の病院迄ある、鐵道隊は「ステーション」の直ぐ前で「プラットホーム」より土踏まぬ位に行く事が出来る、先づ隊の方は夫れ位に止めて置いてサテ船橋に居住したものと、一里の道は瀟車で通らにやならぬ、夫れが朝晩面倒でたまらぬ、尤も隊の將校は多く此式を取つて居れども予の如き朝寝坊の横着者はとても時間々々に駈け附くるのがうるさくてならぬのこ其の内一人の軍醫が學校に行つた爲で隊の直ぐ近所に引越す事に決心したが、近所は何れも百姓様で四方廣漠なる田畑の間々に森林の茂つた内に点々として葺屋根が見へる位チツトも町らしくはなく純然たる村なるも聯隊が出来たりしたのこ何かにつけて町制に改めたさ云ふ理屈附の寒村、滿洲のチャンコロ式土民に鬚髯たるものに御座候、其年の七月に久々田と云ふ村落に引越し爾來東京に出掛けて來ぬと云ふ筋もあれど住めば都とは異く云ふたもの、魚屋も野菜も追ひ／＼と手に入る近所の土民とも懇意になる子供が病んどるから診て呉れと云ふ治ればお芋や大根を禮に持つて來る、ワイロもきく様になる、先づコンナ調子で早や一年半以上不自由を忍んで居住する事になつた、君が予の轉任を知らぬと云ふけれども是れは何かの思違だらふ十全會雜誌にも出て居るし又昨年の年賀状も出して居る、畢竟フダン様互様に御無音の結果ならん、一寸お断りして置きます、以後は宜敷願ひミス

さて此の間に一度尾山をも訪問しよと思つたけれども、臺灣で山の神の話を纏まり四十一年東京にて貰ひ翌四十二年の夏一男をへり出し家族は東京に残し置き單身渡臺する事半年斗り四十三年に歸り翌年春にツギ込み全年十二月に次男をへり出すと云ふ順序で一寸で國へも歸られず、一度山の神に尾山の兼六公園も見せて置く必要あれど貧乏閑なしてお腹が太かつたり赤ん坊が居つたり身体がフライとなればお金がなかつたり思ふ様には參らぬもの、本年こそは奮發して一家眷族引具して暮詣でと出掛け度計畫あれど夫れもドウなる事やら其の場に至らざれば明かり申さず殊に本年四

五、六月は秋田地方に徴兵検査に出稼と云ふ噂もあり、先づ／＼イザ決定の時に知らせ致す事としよふ、

御地の同窓諸兄何れも御歴々の方々なられました、夫れに引換へ小生等は誠に淺間敷ものじや、驕味憎の退行變性は其極に達し何一つ覺れた新知識はなしマセルものは口斗りで理屈は一と通り並べても陳腐な理由は通り不申、とても日進月歩の醫學には追ひ付くどころの話にあらず負けぬ氣出して雜誌を讀んですら夫れすら飲み込みが悪くイヤハヤ自分であきれた者、然もこんな事が御國の爲めで御奉公じやと思ひ直して腹も立てず何んの事はない腰辨連の端くれ宜敷だ、ドゾ六ヶ數學理や政究の事は君等各専門の事に御一任して不相變兵隊さんの金玉や尻尻の穴でも覗いて居る藝當で一生涯を送る決心、ナント心細い事じや、サハサリ乍ら同期で同じ時代に面桶飯を喰ひ一、二、一、二をやつた連中で揃ひも揃ふて東京方面に集まるこは奇遇じや、先づ増田のホカ大人を筆頭に彼は第一師團軍醫部員と云ふハハのきゝたる役目先づ五体なら *Natural Continuum* に相當する處、

次は松村の鳥不相變瘦せて居るがヒゲはブラシー式で戸山學校教官と云ふ陸軍部内の *Professor* 次は藤浪是は横須賀重砲兵第一聯隊附、太田は近衛輜重兵大隊彼も達運兒日露戦争で大に男振りを上げた、さて小生も近衛師團の配下の事故年に一、二回は此の五人男東京の料亭で會合して面桶時代を發弾し牛飲馬食快談壯語する事あり、時の教官野口軍醫正が昨年病院長會議で上京あつたを利して五人男料理屋の二階で會合、お山の話を持ち切り序にハンべるニヤ／＼連をしておケンな顔、お江戸の真中に臺灣があるでもなし何れは薩摩坊か何かだらうと思はしめしほどお國訛りソツクリ、北間、大野屋の奥座敷にでも居る様な氣がした、其後五人男も職務で度々逢ふ事あり、吾等の方では軍醫團研究會と云ふものありて東京では近衛第一師團連合で時々隨行社に催しがある、此の時母校出身の人で軍醫學校學生ともなつて來て居る人には度々面會する機會がある、こんな時を

利用して一圓會と云ふもの組織され軍醫のみならず一般醫師研究生何でも母校出身の人の會合をやる、小生も一、二回出席したが盛んであつた、各學會が四月の頃には開かれる此の時も亦應用する機會じや、處で昨年暮に又五人男研究會の歸るさヨカラマ議論が忽ち一決して某亭で一吋盛宴を張つた、不相變尾山時代の話で花が咲き喇叭節でもた歌でも!!!に話し斗りして居ないで何んです?と〇〇衆から小言を喰つたほどだ、

五人男の外では醫務局に橋本軍醫正(監次郎)、近衛師團軍醫部々員に小町二等軍醫、近衛工兵大隊に窪美一久氏あり、近衛歩四には並河權六も云ふ浪花節の大たて者にてもありそうなる名前の仁あり、マダあるだらうが一吋思ひぬぬ、他は大抵千葉専門校の出身じや、赤門出の團結は誠に目に障る位に幅を利かして居る、何とも致方か無い、ソッソッ吉井のグアサ例の名物男野砲兵第一聯隊(東京世田ヶ谷)に在り演習に習志野に來た節一日遊びに來た、口吻依例如例また單獨なり、羽根田改日野大納言は待命で本郷に新夫婦寓居近隣外科に近しいの筈、一度訪問して舊情を温めた、駒井定哉日本橋小傳馬町で開業したが大に氣縮を吐いて居つたも束の間で面白からず〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇と噂を聞いた、一昨年の一圓會で目にかけたきりだ、

君より來狀子供の戸籍調、一寸小生の知つて居る處を申上くれば、小生は前申上げた如くDiegの二人、松村も同様、増田もタシカに同様なりし、太田は未だ獨身だも云ふが信?否?不明なるも多分單獨ならん、日野氏新婦未だKindあらず、小町は昨秋貰つた斗り切角嘗め廻す時代、藤浪はDieg Diegを譯 Das Dasを懸いで居るこの評判なれど中々以て出ない様子、何の事か小生には判らぬ君にも明らぬだらう、

御地は雪降り居るならん、當地はカラ風寒さも日々快晴、余りに天氣續きて氣道をいためるもの多きこの嘆聲、先づ降らぬが結構なり、東京へは口ハ乗りで毎度出掛ける、何でも御用あらば御申附被下度本屋に

行く用位ならいつでも致します、同窓諸兄へは今度逢ふさきの申譯に宜敷云ふて置いてくれ玉へ、

八田生曰、我等全期の入學生は八十名なりしが在學中多少の變遷ありて卒業の際は都合五十名となつた、証書を握るや蜘蛛の子を散らすが如く己が好む處欲する處に従ひ東西に袂を別ちしが、盈れば虧くる世の習、日露の役に富田君滿洲にて病死し、石黒(福井)辻村(豊橋)の兩君亦肺患にて逝きしは誠に残念の至り謹て哀悼の微衷を表する處である、而して今此書中の五人男の健なるに加へ、當市には島、吉住、熊澤の三開業に福岡櫻木病院と小生の五人居るが、其外富山の加納、片山、高岡の堀井、八尾町の鈴木、福井の小倉、春日、名古屋の都築、縣下河北郡の井原、軍艦朝日の三野等諸君を除き、他の諸君の多數は現在生きて居る?死んで居る?(マサカ他に死んだ人は無しと思ふも)其行動所在の不明なる只々遺憾千秋に堪ぬぬ、我等は夙に全期生一團となりて互に消息を通じ親睦を厚ふし其吉凶禍福を分たんと欲するもの、せめて風のためにも諸君の消息を聞き度し、希くは我等の切なる情緒を容れ昔ながらの君儀的飾らず偽らざる消息をゾクゾク他の多くの諸君より賜らん事を呉々も望む。

●福田美明氏通信 (四十一年度卒業)

第一信 (神經科醫局宛)

昨夜御別れせし以來暗路雪の國を出で四時三十分米原に着し大垣に至る頃東空薄紅皎卓にて人目を辨すピラツマに於て列車他線に入り紅旗の動くを見て一同驚き甚し然れども直に停車して事無きを得たり名古屋にて洗顔はじめて東海の空氣に入りし感あり當地雪なく鐵路見る霜の甚しきを寒氣烈し、然し北國の三月の氣持せり之より急行の名の下に五十錢を取られ是も

東海線かゝ難有味を生し候不知北陸の地の最急行は何時?

第二信 (松原教授宛)

拜啓昨夜午後六頃無事着京仕候東京は四五月頃の氣候にて何とも心地よく本日より愈先生の御指圖に従ひ所々見學仕度先づ最初大學方面を見て漸時進む考に候一兩日中には山田病院(行き井村君にも面會の考に候尙滞在申御用も有之候はゞ何時にても仰付被下度候殊に出發の折には寒中御見送り被下何とも申す様なく深く感泣仕候

第三信 (松原教授宛)

拜啓一日は山田病院に至り井村君に見會仕候同君は見違ふ斗りの「ハイカラ」と相成られ今では實に純江戸兒に有之候久々にて一洋食店に會食大に舊情を温め候二日は大學に至り法醫教室其他を拜見仕候歸途機械店をひやかし申候昨日は慈惠會専門學校に至り生沼先生に面會仕候校及病院も残りず拜見仕り中食の饗應を受け申候序に芝公園も見物仕り南大工町の岡田病院を參觀院長と對話仕り候種々有益なる話を承り候何れに參りても差して異なる事も御座なく唯清潔なるには快感を禁せざる所に候六日は第三回「トラホーム」講習に來られし木越君にも奇遇仕り候

第四信 (松原教授宛)

拜啓其後は御無音に打過ぎ何とも申譯御座なく候實は去る廿日夜歸宅仕候今少時京都地方遊び廻り度考ひ居りしも工事至上急相談を要する由意報有之爲に御地へ立寄り御禮も申す直に歸宅仕り候次第何卒御許し被下度候自己の都合よき時のみ御心配を掛け何とも申上様なき儀に候何れ近日申出澤仕り旅行中の御話しも仕り種々御禮も申上度候

廿日金澤を發し急行東上仕り一日より豫定の行動を取り到る處先生の御蔭様にて非常の優遇と便宜を興へられ深く満足を得申候大學は法醫及附近の基礎科を拜見仕り三浦先生の好意により病室及病人の診斷治療方針等詳細に聞き申候講義及外來は母校出身の淺野、密山、阿兄の便利を興へられ外

科手術をも拜見仕り候近藤外科には同窓の酒井氏有之久々にて大に語り申候葉鴨其他の腦病院にては丁寧に案内を受け満足仕り候山田病院には井村兄と久々にて面會大に舊事を談じ申候其他亦十字病院岡田内科院慈惠院等には大に得る處有之生沼先生には非等の好意に浴し申候千秋、竹中ドクトルは不相變に有之候東京にては器械店も大抵見舞申候十二日夜行にて大阪に赴き途中十三日一日を名古屋に過し好生箱等參觀西川氏に會ひ申候再び夜行大阪に到着仕り十四日大阪府立高等醫學校及病院を參觀仕り和田教諭の好意により院内残らず參觀外來をも倚觀仕り候木村先生には時間の都合上御目に懸らざりしは遺憾千萬に候十五日は大阪衛成病院を參觀大沼軍醫(千葉出)の説明にて一日を軍事的病院に過し申候十六日は午前中窃に緒方病院の大勢を伺ひ午後義兄を訪れ築港に潜水艇及母艦標橋を見歸途川口の鐵工場を參觀仕り候十六日は坂神電車便により神戸に至り兵庫縣立病院に至り淺利兄の親切により院内は勿論藥局等の説明を聽き大に利益を興へられ候同院には母校出身の方七名も有之各科必ず二三名の醫員有之非常に心地よく感ぜられ候歸途楠公社を拜し關西病院を山の手を訪れ居留地を一巡して夜大阪に歸り申候十七日は京都に電車を利用し法醫教室に同窓名取君を訪れ同教室等の案内を受け病院に至り内科耳鼻科等の外來を參觀仕り耳鼻にては先輩岡田君の説明を得藥局にも藥學出身の方の案内にて參考品など頂き申候午後三時より開會の醫學會に一寸傍聽仕り我科に屬するものにては「フッドライヒ」の患者供覽有之候歸途大學前の旅館に館君を訪れ候處母校出身の方他に四名も有之先生と同窓の宮島健治様にも御目に懸り候京極を見つゝ大原兄の開業振りを見大に氏の温情ある言に感じつゝ再び大阪に歸り申候十八日は天王寺に腦病院の外型を見公園を遊ひ十九日は再び義兄及叔父など一日を語り合ひ再び京都地方へ向ふ考なりし慮急に廿日歸宅仕り候歸途米原より寒氣甚しく車中腹痛を發し歸宅後一二日臥床仕り候も今は回復仕り候何れ近々申御禮かつく出澤仕り萬々申述べ度唯歸

途先生の御顔を拜せずして家に來りしを殘念に思ひ居り候

當方家屋も歸宅工事を急かし居り候間三月月上旬には診察する迄には差支なくなる事と想はれ候自己の考にては來月十五日頃よりぼつ／＼始め度き考に候何れ其以前一度參上仕り種々御相談仕り度何卒不序の罪は幾重にも御許し被下度候先は御わびまで

二月二十五日 富山市鍛冶町十番地 美 明

●矢吹清氏通信 (石譯太作氏宛)

全氏は四十三年に本校を卒業して内科第二部に研究し昨年九月大連醫院の外科部の病理家となりて活動中なり。

拜啓新春早々より御無音缺禮仕り申譯けなき次第に御座候其段幾重にも御宥下され度候時下春陽日ましに加はり何さなく浮き立つ心地せられ候御近況如何に御座候や聞く處に依れば先輩福田氏辭任の由御繁忙の事さは存候得共如何に御座候や又近來は何か面白き研究材料にて有之候や松原先生も相變らぬ努力にて校務に院務に御勵精遊され候や皆々様に宜敷御傳言願上候

世界の大問題も大清國皇帝の退位に依り一段落を付きし様に御座候得共不肖等には何か尙益々不安を感ぜしむる様に御座候當滿洲に於いては革命の騒ぎも甚敷き影響を來さぬ様に有之候へしが近來北伐軍さか何さかにて稍活氣立ちたる有様に御座候殊に奉天附近に甚敷く候然し如何に落着するも支那人の頭には物質的文明に眩惑せられず有られ間敷々存候當院などにも支那人の外來患者が益々増加いたし居候殊に注意すべきは人に見らるゝも耻ずる支那婦人にてすら近來は治療を乞ふ者多々有之候聞く處に依れば高商卒業の快男子が上海にてばかりかん一帖の急斬髪師となり直ちに數百金を得又上海附近にて毛布及中折等の賣行甚敷く殆ど品切れの由又洋服の賣

行きの好良なる爲めに機敏なる三井は帽子製造所を上海に設立せる等實にハイカラ熱は甚敷くなる可き物と存候又革命後に於いて我が醫界に對する支那人の要求は想像するに難からずと存候。尙日人支那人以外の西人は如何の狀況に於けるかを聞くに疾病に罹れば上海を根據に集合し若し治療不可能ならば本國内地に歸る由に御座候故に若し英語に稍々學問ある清國人は英語を話すの素養のある者、幾分の支那語を習得し支那内地に開業せば必ず成功するならんと存じ候目下も清國南部に開業せる日醫にして一二年にて洋行費を作り洋行する者多々ある様に聞き及び候。

又人口五六万を有する當大連に於ける開業の數は約二十人に御座候内約半數位は數万の私産を有し今は洋行の準備として、獨語の習得に餘念なき次第に御座候其の獨修法の猛烈さ加減は想像の餘りに御座候由毎朝二時間持續的に爲せる由獨語教師も驚き小生に話し居候又其の他の府及會社の醫員にて獨語の研究は甚敷き者に御座候不肖等が現時に於いては刺戟せられて受動的に勉むる傾も生じやせんかと思はれ候本院は南滿會社の所屬醫院に御座候然して南滿會社にては大連醫院を本院として其の院長をして全線に渡る醫務を司らしめ居り候而して同線中の稍々重なる處には分院及小さき處には派出所を設け居り候故に滿鐵醫院と申せば其の全員數は甚敷き者に御座候而して會社は毎年二十五萬圓位の補助を與へ居り候其の半額即ち約十二萬圓は當大連醫院の補助に御座候而して本院の取得は毎年七八萬圓の由に御座候此の外物品の購入數は即ち會社の財産になる物に皆補助額以外に御座候明年後年の二ヶ年計畫にて百萬圓の豫算にて本院の新築をなすよきに御座候而して清國の日本人は勿論南清地方まで大々的廣告して清國の患者を吸引する考の由に御座候

本院の患者及其他の醫員及醫長の一般は又暇を見て報知仕るべく候若し同業中渡滿の御志望の人々有之候は、御一報願上候及はず乍ら不明の條々調査の上返答仕るべく候

二月十八日

矢 吹 清

滿鐵大連醫院にて

●相馬甲五郎氏通信 (松原教授宛)

全氏は四十二年に本校を卒業して外科一部及婦人科に研究し後ち出てて七尾の警察警士となり昨春秋辭職の上東京に上りて目下吉原病院の警員として勉學中なり。

雲の色美はしく春長閑に相成り申し候處先生には益御壯健に渡らせられ候段質し奉り候さて小生儀昨年十月下旬當吉原病院に就職以來日尚ほ淺く許はしき當院の狀況判明せぬ点も多く有之候も概畧申し上く可く候

入院患者數は其季節により又景氣の如何により一定致さず候も大抵二百二十三名より三百名位にて娼妓全數の一割乃至一割二三分位に候(吉原全娼妓數は三千と稱するも昨年四月火災後は減少し目下三千未滿に候も來る四月以後は復舊する由に候)其他當院には千住の患者を收容致し居り候も僅少にして二十名内外に候

入院患者は凡て

淋科 (百内外より百五六十に至る)

軟科 (軟性下疳表皮剝脱等にして七八十名より百内外に至る)

梅毒科 (二十三名位其他注射のみに來る通院患者二十名位あり)

外科 (二十三名にて之れ又通院二十名内外あり)

内科 は各科に入院中に起る偶發症にして時に重症に陥り(殊に夏期に脚氣の爲め)死亡するものも有之候

に分類し各醫員に分擔治療せしめ各科三ヶ月毎に交代せしむる様に致し居り候受持の患者に對して自己の欲する治療法は勝手に許され居り申し候各月末には治療成績を出たし府下各病院との成績を比較致され居り申し候醫

師は七名にて院長(佐藤榮氏永樂病院外科出身) 醫長(野日理明氏帝大皮膚科出身)は大學出身にして共に醫術開業試験委員に候以下醫員五名藥劑師三名に候

入院は検査醫(娼妓の健康診断のみに從事する醫師にて主任は東京大學皮膚科出身の秋吉醫學士にて東京府下の各遊廓を順次に廻はり居り候)が有病と認むるものは入院を命ず入院せる新患は病院に於て醫長初診の上各醫員に治療の方針を示す退院の際は各科分擔の醫員が全治と認めしものを集めて院長之を診し然る後に再び検査醫の診察を受けて治療せしものを退院せしむる方法にて検査醫に對しては特別の權利を與へ居り候

以上の如く病院醫員は只病者を治療するのみにて入院に關しては無關係に候勤務時間は一一般官吏と同じく其上に日曜以外には大祭日と雖も休暇は無之候

病氣として尤も多きは子宮膜炎にして次で軟性下疳にて梅毒は一期二期のものゝみにて三期梅毒の如きは悉無に候「サルブレルサン」の靜脈内注射は只患者の希望するものゝみに行ひ居り候外科は多く横痃、痔瘻等にして興味ある手術さては一も無之候其他警視廳醫事研究会なるものあり東京の各病院職員(吉原洲崎新宿曾川)及び検査醫よりなる會にて毎月一回第三土曜日(警視廳又は吉原病院内に開き居り毎回出演者を順次指名して必ず出演せしむる事に致し居り候此の會には毎回栗本三部長國澤技師出席致し候

病院は吉原遊廓の所有なるを昨年四月より警視廳に寄附せしものにて完全なる設備も無之候も近年中には全部改築の由に候
病院勤務は大休以上の如くに御座候
尙ほ本校出身にて當院の醫員たりしものは辻岡律作氏(三十年出身)並河正雄氏(四十一年度卒業)にて辻岡氏は目下開業致し居り病院前に出張所を設け當遊廓内の開業醫中最も成功致し居り候並河氏は昨年より洲崎病院に轉任致され候

其他小生の同窓生にて本年新たに上京せられしは高澤冠一氏(傳染病研究所)及び高田茂一氏(陸軍軍醫學校)の御兩名に御座候
乱筆御めん下され度願ひ上げ候

吉原病院宿直室にて

二月五日

相馬 甲 五 郎

(東京小石川區久堅町五十八番地)

●和田政範氏通信

(松原教授宛)

全氏は四十三年に卒業して關西地方の病院に奉職し昨年八月歸郷して開業中なり

俗務多忙とは云へ恩師に對する禮を失するの大なるに耻入申候年新たまつて母校に愈々非凡の精力を奮はるゝ先生を見ては我等欽仰措く能はざるを覺ゆ申候(Ohne Raich kann man nicht leben 自ら作る刺戟の中に自らを没入す可く餘りに小なる我は刺戟對照の一人として先生を有するを深く喜ぶ者に御座候能州の片田舎に開業せる一庸醫に向つて將來有力なる刺戟と多大なる助力とを惠まれん事を懇願するの情にたゞ申さず候頓首

能登鹿島郡金丸村

和田 政 範

●植西武彦氏通信

(松原教授宛)

全氏は四十四年秋本校を卒業して目下京都醫科大學内科にて研究中なり吾人は好護の健康を祈るゝこと切なり

金谷箱にて諸先生と御別れ申參らせしは昨日の如き感あれど隙ゆく駒の足はやく最早や一ヶ月も經過致し候御なつかしき師の君には如何御暮らし遊

され候哉日々母校の爲め御教育に、はた幾万の書と親み遊され候御事とほるかに御察し申居り候次に私事に學中では長の年月いさも御惠み深き御露にあびて朝に夕に教へ導き給ひし其の御恩別れにのぞみて尙御殘し給ひし御ささしの數々感謝の言葉も御座なく候其の後京都醫科大學内科教室にて研學致し居り候間他事ながら御安心被下度候今更ながら獨乙語の必要を感じ在學中の不熱心を後悔致し居り候當地には同窓の先輩諸兄も多く万事好都合にて將來は共同的に活動致す心組に御座候先は御禮かたゞ御伺まで尙詳しき事は後便に譲り申へく候早々頓首

京都市六角通富小路角。島田醫院内

武 彦

●植西武彦氏通信

(松原教授宛)

梅花の笑ひ初めてより幾日ナハチガルの聲もこゝかしこに聞ゆるけふ此頃先生初め諸教授閣下には益々御壯健の段邦家の爲め欣喜の事に候、隙行く駒の歩早く小生卒業後はや百餘日と相成申候母校の事一日も念頭を離れ申さず候へ共「オリ」に遊ぶ暇の有る人の暇なして文讀めかな」の言にもれず意ならずも御無音に打す候段何卒御容赦下され度候毎々御玉章十全會雜誌御惠贈被下親しく先生同胞に面談する心地仕りなつかしく繰り返し拜讀致し居り候小生事當大學へ勤務致し候てより日尙淺くして得る所少なく且内情等にも暗ら御報知申上ぐべき程の事も御座なく候へ共只第一に刺戟を受け申候は例の外國語に御座候今更ながら在學申請先生の御師導御忠告を馬耳東風と聞き流がせし前非を後悔致し居り候ありていに自白申せば在學申請先生の「レクチュアー」、殊に先生の表解等にて聞き覺ゆ術語の爲め大學の「クリニツク」、「ポリクリ」等の諸講義は解するを得候へ共さて自分が「アナムネーゼ」をさり又は書くべき時等に「ブレボチヤン」、

「スベル」等を誤りわけもなき單語を忘れ或は「レセチュプト」の語尾の變化をまちがへ亦面仕り候事度々有之候

今後御卒業遊さるゝ諸氏にはかゝる小生の如き方は之れ無き事と察し入り候へ共前車の轍を踏まぬ様せめては平素の「ホリクリ」の「アナムネーゼ」、

「スターツスペンゼンス」の如きは獨文にて書く習慣を御つげ下さるゝ様呉れ呉れも御願申上候

御承知の通當大學各科にては醫學講習會開催せられ(二月中)各國よりは勿論なつゝしき母校よりの先輩諸氏も多く参加せられ申候昨夜締君を訪問仕

り候處宮島、金子、山脇、加茂、富永等の先輩諸兄も來訪せられ楽しく談じ時の移るを忘れ九時半再會を期して歸途につき申候本日早速名取、内田

の諸兄を訪ひ金澤出身にて京都在住のもの發起にて講習會員の來會を機とし歓迎を兼ね同窓會を來る廿五日開催致す事に決定仕り候、目下來會せら

るゝ我同窓は大學に十數名、市内病院、開業醫等合して二十五名以上の見込にて定めて盛會ならむと樂しく期待致し居り候何れ詳しく事は後頃に申

上べく候先は御無沙汰御謝びかたゝ近況御報せまで末筆ながら諸先生始め同窓諸兄へよろしく御願申上候

二 仰

申兼れ候へ共愛讀すべき邦文醫學雜誌の名稱御ついでの節御教示願上候

二月二十二日夜

武 彦

●延川靖氏通信 (松原教授宛)

全氏は昨四十四年度の卒業にして將來有望の好漢なり幸に自重益々研究せられむ事を祈る

拜啓寔々愈々加はり來り候處先生には何の御變りも無之日々御精勵の御事と推察仕り候

さて私事只今迄歸郷仕り居り候處新潟市竹山病院にて切望致され候につき去十九日當地に着し毎日勤務罷在り候醫員は院長醫學士竹山正男氏醫學士前田待三氏醫員として安田三木氏及私にて中々多忙に有之候先は取あへず右御報知までかくの如くに御座候早々敬具

十二月二十五日

●森田齋次氏通信 (松原教授宛) (三十一年卒業)

拜啓十一月發行の雜誌は昨日到着仕候深く貴兄の厚意を謝す、石森は目今「Frucht」の「Folger」所で研究し居らるゝ由に候

新年には大に呑まれたる事に候はん、在「ハルン」日本人八人は去る二日に或る「Bole」の一室を借切り純日本の無禮講新年宴會を開き申候御馳走は今

度「ベルリン」より態々取り寄せたる正宗四合瓶二本、福神漬一罐、淺草海苔五六枚、松魚節一本「そば」三十碗にして晦日と新年を合併した様な珍無類の獻立にてナカノ愉快なりし。今朝初雪三四寸積り居た今尙降りつゝ

ある「誤つた雪は異國も只白し」と出たが如何です。當「ハルン」大學は小大學なれども約二千人位の學生在學致し居候(「ベルリン」大學は九千八百二

十九人にて男子は八千九百八十四人女子は八百四十五人なり醫科のみでは男子が千八百十人女子が百八十二人なり)現今「ハルン」大學總長(Rektor)

は婦人科の Veit 教授で、醫科大學長(Dekan)は内科の Schmidt 教授である、醫科の教授中には Veit, Roux, Francker 教授の如き知名の士あり

然し多くは申老なり只醫學化學の Aberhardt 教授は三十幾歳と云ふ若流

行 Prof.にして各國より學生を吸引し赫々たる光彩を放ち居らるゝ氏は有名なる Fischer の弟子にて Eiweshenke を以て名あり今冬期より當大

學に來りしなり、講義の如きは快刀亂麻を絶つて實に痛快なる由に候解剖教室は近年の建物にして立派で室の數より云ひば東京大學の三倍位は

あるたゞ Director Geh. Roux; histol. Professor Prof. Gelhardt, anat. Prosect. Prof. Eisler, Oberassistent. Prof. Oppel, Assistent. Prof. med. & phil. Aichele, Präparator Bilkenrot, Oberdiener ist Rofft 及 Radinsky にて其外に尙小使三四人あり

解剖教室の一年の經費は三万「マルク」にて教授の俸給及死体を得る爲めの費用を除く外は皆此中より支拂せらるゝ小使の給料も此豫算の中から出る Oberdiener は一年千四百「マルク」を受け居候

教室の圖書室及 Sammlung は思ふて居た程には無之候 Sammlung は三つに分かれ、系統解剖 Sammlung 人類學 Samml. 比較解剖學 Samml. に候、異形の標本中には珍しき者がある、殊に兩足無して生れ充分に（殊に強く）生長し、後少女を姦し獄に入れられ獄内にて死したる者の骨格にて生前の寫眞迄である、人類學の方は當大學の初代の Prof. Meckel (183年? に死せり) の集めたるものにて頭蓋の如きは随分多數に有之候（先年京都大學の足立教授が調査に來られたる由）

當解剖教室の主任は現代が Meckel、次ぎは Volkmann、次ぎは Weber 次ぎが現代の Roux 教授である、Meckel は一屬皆學者であつた由にて該も著書がある爲めに小生の如きも既に知り居たり此 Meckel の骨骸は交連して人類學の Samml. に設置しあり Volkmann, Weber, は石膏像として其傍らに陳列しある、此等を見たる時の余の感じは Meckel に深ッリし、此頃流行の銅像を廢して恩師恩人効勞者の如き後來の Erinnerung を要する人は宜しく凡て骨格保存に限ると思ひ候

解剖講義の聽講者は百五六十名（中女は四名位）實際解剖に出るものは二百六十名斗り、中女が八名に候、女は眞面目の様だ男は（スゴラ）が多い様であるが試験の外に國家試験がある故眞面目の時は極て眞面目にある様見受け候

御承知の如く獨乙大學は學生の特權として非常なる自由を許してある大學

は人間の淘汰所で不良なるは幾十年でも居る卓越なるものは何處迄でも昇進が出来る、然し一利一害は大の數で特權に一利あると同時に害あり近時一般に害多くして利少なきものと認められ居るが如し、論者は寧ろ此特權を剝脱す可しと迄で論じて居る、左程極端ならざるものも特權に伴ふ害を除去する手段方法を講ずるは目今の急務にして其實父兄學校當事者にあると云ふて居る、此れが矯正の手段として、大學に入學する各學生には一

小冊子一枚の印刷物を呉れる小冊子は Wissenschaft und Sittlichkeit と云ふ Thiel である Lausanne 大學の生理の教授 Herzen の著書で「ヤルリン」大學の Rector Harnach の Vorwort を以て翻譯せられたるものなり（男學生だけに呉れる）此著の大要は男女を生物學の方面より觀察し説明し遂に男女の交際は尊嚴なるものであると云ふにあり終りの一局を記せば „Achte und ehre die Frau, die Schwester, die Tochter jedes andern so hoch, wie du willst, dass man die deine achte und ehre.“ 一枚の印刷物は獨乙の數大學の衛生の教授の名を以て記載せられたるものにして大要は「獨身生活者の多數は花柳病者にして年と共に増加したるを統計を以て示し殊に近時は學生の花柳病者は非常に多きを亦統計を以て示し、終りに未來の國家支持者たる汝等一顧せよと云ふにあり」

此れを見れば此事實に由れば學生は學校及家庭に於て一定度の制裁を加へ職業を得せしめたる後社會に出してから淘汰する方は最も宜し、干渉教育は効果を納むると多しと考られ候、科斗は例令蛙の子でも蛙の如く Das Freie に於て飼養しては皆死んで未舞ふ様な者と思ひ候

僕の今居る室は曾て金子先生が居られた室で先生は北東向きの机を使用せられたる由小生は其隣りの北西向きの者を使用致し居候。

獨乙國は非常に婦人が多い様に本國で聞て居たが昨年十二月十九日に發表せられた 1910 十二月一日切りの統計に由るに男子 1600 に對し女子 1025 である。而して學問國の統計程あつて其理由を詳述し且つ Fryer に

由て反て男子の多き所ある (Hannburg 及 Hannover の如き) 理由を説明してあつたが感心致し候

當地に来てから耳新しく聽た事は昨年八月「ヤルリン」にて報告せられたる Alexis Carrel (米國人) の有機体外に於ける組織の培養云々 (Die Kultur der Gewebe ausserhalb des Organismus) 去る十二月二十日「ヤルリン」にて報告せられたる Wassermann, Heilungsversuche an geschwulstkranken Mäusen. (此れは Eosin-Selen を注射するを三日にして鼠の腫物が治するを云ふ報告なり) をいり其外 Melode 氏は Spaltholz (Leipzig. の Anat. の教授) の動物亦是人体の全体を透明にする法にして、血管等に初め注射して置て後に透明にするを實に美麗なる標本が出来る貴兄も試みられては如何 (既にこれに付ては著書が出版せられたから或は解剖教室の金子先生等は御承知) も知らんが一應此所に處方を記載致し候

1. mit Alkohol, Formol, Sublimat od. Kaiserling's Lösung fixiert.
2. Entzünden
3. Bleichen mit Wasserstoffsuperoxyd (je nachdem saure oder schwach alkalisch.)
4. Sehr gut waschen.
5. Entwässern in steigenden Alkohol (biszu 100 %)
6. Übertragen in Benzol (zweimal wechseln : feuergefährlich !!)
7. Einlegen in die Endflüssigkeit
Endflüssigkeit
5 Teil : Wintergrünöl (Gauthieraci, Salicylsäuremethylester)
3 Teil : Benzylbenzolat
8. Ervaccinieren des Benzol und der Luft (mit Luftpumpe).

此比例は材料の如何に由て變る

尙申上度事山々胸中に満ちて居るが筆が意の如く運ばざる暇が無いので此度は此れで御面を褻り何れ後便に書き申可く候。聞く事見る物皆臆底迄で引き込まれば *weisen* 出來んのだから時を費すと非常で多忙である

終りに同窓諸兄に宜しく御風聲被下度願上候

四十五年一月十七日

森 田 齊 次

Forsterstr. 23/II

Halle a/s.

●岩崎勝治通信 (外科二部佐崎氏宛)

氏は三十八年の本校卒業にして目下弘前病院勤務

久淵御高免被下度候

一別以來頼と御無沙汰に互に消息を缺き動機も定かならず候處先月十全會紙上學兄の外科二部に御勤務の由承知仕り徐らに昔懐かしく一書を呈せし次第

扱て第二の郷里金城の地の昔は忘れんと欲して忘る可からず候同窓にては兄の外母校に研究せらるゝ人なく御地との通信も雜誌にて消息を知るの外由なく候

野生の近況を御漏らし申候秋別當時武生地方に二年計り浪人し一向面白からず上京大學青山内科に二年許り介補として油を賣り四十一年春當院へ流れ降り今では古狸で大平樂を並べ居候東北の地に流浪して既に五年の星霜を經れ共徒らに誤魔主義で眞面目の研究と云ふ話ではなく大に浮顔の至りに存候

當院は弘前市の市立にて至つて小なる病院に候も青森縣には公立病院として唯青森市立病院と當院の二つに御座候然とも前者は先年の大火に際し不幸焉有に歸し今に至るも尙新築の實行を見ざる次第なれば兼ての縣立病

院計畫も如何のものにや

當院醫局は院長醫學士にして嘗て青山内科に研究せられし人野生の介補時代よりの知己にて當地まで御供致せしなれば萬事都合——二人で内科小兒科を働き居り申候午前は外來並に入院患者の診療午後は二人で市中外の往診、當今は大に閉口仕候毎日大抵七八軒位で春さか秋ならば宛にも角にも冬期も來ては寒氣甚烈の爲め往診希望者一層増加仕候。

他に外科は仙臺出の得業士副院長として耳鼻咽喉科は同じ仙臺醫學士婦人科産科は是も仙臺醫學士眼科は内務省の受験者及調濟部長の七名にして醫局の和氣藹々さは稀れに見る處に御座候

當地は一体に仙臺出身者の勢力範圍内にして從て野生の責任も亦大に御座候

病室は小規模の病院の事故傳染病室併て六十以上の患者を收容する事能はさるも終始滿員の狀態に御座候而し別に御知せする珍らしき患者も無之候當地には前述の通り地勢の關係上母校出身者極め少く唯當地より三里許り隔てし黒石町には跡地氏(甲種醫學學校時代出身)青森市の澤田氏を始めとして三十七年度卒業にして母校病院外科第一部に研究せられし上野忠氏殊に氏は當市に於て外科耳鼻科専門にて頗る盛大に敏腕を振へ居られ候此外三十九年度卒業の高谷七兵衛氏及野生の五名にて折々會談の機を得候

尙當地には年一回各専門學校出身者一堂に相會し大に氣焔を吐露すへき所謂業士會なる者も御座候

當地は有名なる寒國にして積雪甚からざるも溫度に至りては驚くべく目下(一月初旬)攝氏零度以下にて嚴寒最低は攝氏零度以下十四五度迄下降仕候而して水分含有し居る者貯蔵宜しきを得されは直ちに氷結仕候鶏卵の氷る位は敢て珍しからず外出時には髯は悉く氷結致候五月に至らされは梅花咲き申さす候

東北人士は漸して質朴野生も追々之に感化致され候さりながら「ライツェ

ン」が少なく段々「アトロフエー」する計りなるに反し簡化して大藏と相成りしには一驚仕候同窓生平原雲新氏南洋に大活動の由羨ましき事に御座候 迂生今や東北の僻地に老はれ誠に意久地なき次第に御座候へ共爾來折々御通信相成度候

宮田先生始め各先生へ御宜しく申上被下度候。時下益々諸兄の御健康を奉祈候敬白



校内雜報

●香林會例會の記 (二月十七日)

山高きを以て尊しとせず、人多きを以て恃むべからずと古人の云ふた言である。其處で、これの對語ではないが、余輩は、山低きを以て賤む勿れ、人少きを以て輕んずる勿れ」と叫ぶのである。扱香林會といふ文字の本誌にあらはるゝのは蓋し今回を以て初めとするのであるから例會の記を述ぶるに先ちて些か茲に會の概畧を述べようと思ふ。

香林會とは現在の藥學科第二級生三十餘名が一團となつて組織したもので、其目的とするところは、學事の研究、常識の修養、並に「クラス」の親密を圖るさいふことである。其方法として先づ香林會例會を毎月第二土曜日に開くこととし、而して其都度、當番幹事なるものが(これは全員を別ちて七とし、毎月五人宛當番幹事となる)、全力を盡して其例會一切の事務

を執るのである。而して其例會には、演説、研究報告、討論、名士招待聽講、遊戲、娛樂等を行ひ、一方學事の研究に盡すと共に、又「クラス」間の交際をして圓滿ならしめ且各自の修養を期するのである。勿論世には數へたならば、かゝる會は頗る多いであらう、然し稍もすれば龍頭蛇尾に終らんとする此種の會に於て、些々乍らも成切の域に達し、兎も角これが實現をなしつゝあるといふ一事に至つては、余輩は敢て誇るにばあらねども、大聲呼號するのである。

數より論ぜば僅かに三十餘名、四高の借屋住ひに稱もすれば其存在をすら疑はしめんとする、境遇にある吾等は何時迄か情眼を貪るべき！茲に奮然として起ち、社會、學界に對して貢獻をなすべく、又各自の修養を期すべく先づそれが最初の手段として、此香林會なるものが組織せられたのである。此香林會の今後如何に活動するかは、事未知數に屬するを以て、言ふべき限りでないが、茲に最近の例會の状況を述べて同學諸氏の一讀を煩すのである。いでや當日の状況を物せんか。

二月十七日(土曜日) 午後六時より第三回例會が、野田寺町高岸寺で開かれた。此晚は生憎雨で會場が中心を離れてるので随分遠い所の人もあるから集合は如何あらんと思つたが、御心配御無用とあつて、三十餘名キシリと揃つた見事さ。「君遠い所を御苦勞だれ」と淺野川口に下宿して一友の肩を敲くと、「ナニ遠いものか、クラスの平和に代へられんサ」と。此時余は一種の「インスピレーション」に打たれたのである。吾「クラス」には從來、當否の論に別るべき問題に屢々遭遇したが、之に就て、君子的の争、正々堂々の論をこゝを戦はせ、卑俗の争に至つてはかつて無いのである。さればこそ「クラスの平和」なる熟語が何時となく、作り出されたのである。さて六時を過ぎると二十分にして、當番幹事申林君に依つて開會の辭は述べられた。續いて講演に修つた。劈頭壇上に立つたのは、一、探險の失敗(小出君) である。君が中學時代に好奇心に驅られて、

砂金を探集すべく、武州多摩川の上流をテントを荷ふて廻り、或溪川の邊にて一種の光ある小片を認め、喜び勇んで持歸り師に就きて訂せしに何ぞ圓らんこれ蛭石なりしならんとは、その經驗談である。滑稽の中にも又研究の一端を見出した。

一、昆布の話(宮崎君) 先づ昆布を三種に別ち、各自の原名、性質、成分に就て精細なる説明を下された。

一、Tarkuennu officinale (増永君) 即ち蒲公英に就て説かれた。先づ君が幼年時代には只美麗なる花としてこれを弄び、中學時代には植物學にて學び、現今藥用植物として之に興味を有すこの前提より、本植物の成分、有効分に就て述べらる。尙君が此植物に對して一の研究をなしつゝある由を語らる。次に滿場破るゝばかりの拍手に迎へられて壇上に立ちしは當日特に招待せる市内知名の藥業家。

一、藥業界の現時(澤野外茂次氏) なり。悠々迫らざる態度、明晰なる口調にて、現今の藥業界が如何にあるか、將た如何に進むべきか、藥劑師は何をなすべきか等に就て、焔々懸河の辨を振ふて、吾等後進を教へらるゝこと正に一時間。壯重の言と懇篤の語は各自の胸に大なる共鳴を與へた。其處で幹事は茶と菓子とを配らる。暫し茶を啜る音と菓子を食べる音と賑ふた。折しも拍手の響が鳴つた。これは此寺の住職が一場の修養談をせらるゝのである。開口一番「本日はお辭り申しましたが是非にさいふので壇上に立つた様な次第です、ところで成べく抹香臭くないこの事で……」と先づ一同の顔を解かしめ、それより精神修養の必要を説かる。其間時に諧謔の句を交へて、欠伸を中和せしめられた。次は、一、Musha に就て(内藤君) 君は薄荷に就て話された。即ち日本産と外國産の區別、日本に於ける栽培の状況を精しく述べられた。次に一、山中鑛泉調査報告 として越智、竹内、相の三君が交々立ちて一々數字を擧げて詳かに、説明せられた。其勢多とすべしだ。次は

叙任及辭令

一、國士論(石野君) 君は既に壯士の概がある而して此演題を提げらる蓋し至當と言ひつべしだ。案を敲き泡を飛して、國士を説かれ、國士の態度を以て萬事に處すべしと結論して壇を下る。

續いて五分間に修つた。是亦盛なりだ。宮田君、吉野君、鹿島君、神谷君、堀君、竹内君の諸氏交るゝ起ちて、所感を述べ時世を論じ、氣焔万丈當る可からずだ。

これにて講演部は一先づ終りを告げて、餘興に修つた。人は一方に研究あると共に他方に清新なる娛樂なかるべからず。香林會はよく學ぶと共に、よく遊ぶのである。餘興待つ間にしるこが配られた。其甘いこと。

一、尺八(宮崎君、竹内君) 先づ両君の尺八合奏に依て幕は切て落された。曲は六段。両君とも斯道の名手なれば、其音の妙なる、其響のゆかしき、聽者をして羽化登仙の思ひあらしめた。

一、長唄(長尾君) 君が獨特の長唄、これ又非常の喝采。

一、追分(相君) 君は「クラス」有數の美音家。その聲の美しさ、情緒纏綿として其響は遠く、微かに、何處までも流れゆくかの如くに。

一、琵琶歌(石野君) 君は人も知る、金城琵琶界の覇者である。期々たる音聲によつて語り出されしは、「別れの國歌」である。こは日露戦争に於てあらはれた忠勇義烈の一兵士の壯烈談である。之を聞くもの誰か涙を流さざるべき。強さばかりが男なるまじ。げに、一座森として傾聴したもの無理はない。

一、バイオリン(吉野君) 次でバイオリン片手に、顯はれたのは多藝の吉野君である。奏づる曲は其名も優しき千鳥さかや。さばれ一高一低の音の面白さ、ゆかしさ、そゞろ人をして、優美の感を抱かしめた。

かくて興は盡きれども時は遠慮なく過ぎたので、一同香林會の万歳を三唱して會場を出た。時正に十一時。暗空には二三の星が淋しげに光つてゐつた。(三月二十日R、K生)

海軍省

舞鶴海兵團附兼見島軍醫長 大西 瀨 治 (三年)
 免本職并兼職補鹿島軍醫長

石川縣

二月十五日
 九級俸給與依願免職 (外科二部) 醫員 伊 藤 喬 (三年)
 二月二十二日
 依願免職 (婦人科) 醫員 上 野 善 造 (四年)
 二月二十九日
 依願免職 (婦人科) 醫員 吉 田 圓 磨 (四年)
 二月二十九日
 命醫員 (十二級俸) (内科一部) 中本和 三郎 (四年)
 全上 (十二級俸) (婦人科) 浦 晴 二 (四年)

金澤醫學專門學校

二月二十九日
 金澤醫學專門學校醫學士 山崎 重 次
 内科學副手ヲ囑託ス
 月手當金貳圓給與

人事

會告

●伊藤 喬氏 (三十九年度卒業) 久しく宮田教授の下にありて患者の治療に専心従事されしが本月中旬職を辭し上京器械萬端を取揃へ歸澤市内高岡町「エモンド」橋角にて開業せらるる切に成功を祈る。

●吉尾 開道氏 (三十九年度卒業) 同氏も山崎教授の下に研究中なりしが本月初旬職を辭し上京各病院を視察して歸澤豫て準備中の市内袋町にて開業敏腕を振はるる氏の祝福を祈る。

●福田 美明氏 (四十一年度卒業) 豫て上京中なりし同氏は京都大阪名古屋地方の病院を視察して歸宮三月十五日より愈開業せらるる由門前市をなすの發展を祈る。

●上野 善造氏 (四十二年度卒業) 婦人科醫員なる同氏は二月下旬辭職せられ三月中旬内各科傍觀研究の上歸郷開業せらるる。

●吉田 圓磨氏 (四十三年度卒業) 婦人科醫員なりし氏は二月末辭職歸郷開業せらるる發展を祈る。

●高田 信弘氏 (四十三年度卒業) 内科二部に研究中昨年舩倉島に脚氣調査に従事せられしが今回郷里射水郡大門にて開業せらるる。

●絹川 義温氏 (四十四年度卒業) は卒業後眼科に研究中なりしが今回福井縣芦原にて開業中なる當校出身某氏の下にて敏腕を振はるる。



●自明治四十五年二月十四日校外特別會員會費調書
至全 三月四日

金額	期	限	氏名
金參圓	自四十四年度	三ヶ年分	安澤 一 清君
金五圓	自四十六年度	七ヶ年分	柴田 順 三君
金六圓	自四十四年度	三ヶ年分	高橋 壽 朝君
金貳圓	自四十四年度	二ヶ年分	永井 學 造君
金四圓	自四十四年度	四ヶ年分	高 伊 三 郎君
金五圓	自四十四年度	七ヶ年分	宮崎 稻 作君
金貳圓	自四十四年度	二ヶ年分	七五三 龜 吉君
全	自四十四年度	二ヶ年分	勝 股 亨君
金貳圓	全		綾 部 讓君
金五圓	自四十二年度	七ヶ年分	丹 羽 直君
金貳圓	自四十八年度	二ヶ年分	中田 德 次 郎君
金參圓	自四十三年度	二ヶ年分	岡本 京 太 郎君
金壹圓	自四十四年度	五ヶ年分	山田 伊 之 助君
金五圓	自四十八年度	七ヶ年分	大塚 正 一君

以上